

1-(1) 主題研究計画

1. 研究主題・副主題

基礎・基本を身につけ、学びに生かす児童の育成

—国語科・算数科を中心とした言語活動の充実を通して—

2. 主題設定の理由

(1) これまでの研究経過と児童の実態から

本校では平成 16 年度から国語科の指導を研究主題としてきた。初めの 4 年間は「話すこと・聞くこと」の領域の指導(「表現する」「伝え合う」「対話活動」など)を取り上げ、平成 20 年度からの 3 年間は 3 年次計画として「読むこと」の領域の指導(「確かな読みの力」「説明的文章」など)について、その工夫を探究してきた。その中で、私たちがねらった力を児童が身につけてきたと考えている。しかし、表現したり伝え合ったり、確かに読み取ったりする力が身についたりその指導のポイントが明らかになったとしても、それが国語科の学習(あるいは学習指導)の中に留まってしまっている傾向があった。

一方、諸学力検査の結果から「話すこと・聞くこと」や「読むこと」だけでなく基礎的・基本的な学習内容が児童に十分に身につけていないことが分かった。また、授業中の児童の様子から、児童のリレーションが低い、自分の考えを表現することが少ない、学習意欲が乏しい、といったことを教師が共通に感じていることもわかった。

そこで本年度は、研究的な取り組みの切り口を広く設定することで児童の学習に多面的に取り組むことにした。学ぶこと全般を念頭に置きながらも、特に授業時間数が多く思考の要となる国語科と算数科を中心として研究的な取り組みを進めたいと考えて本研究主題を設定した。

(2) 教育目標の具現化の観点から

本校の教育目標【明るく心豊かな子、自ら考え工夫する子、健康でたくましい子】が目指す児童像は【思いやりのある児童、考えを持ち表現する児童、たくましい児童】である。【考えを持ち】それを【表現】しながら学ぶ、本校児童をそういう姿に近づけるには、基礎・基本を次の学習に生かせるように身につけさせることが大切であり、そのためには意図を明確にした言語活動を学習指導の中で充実させることが効果的であると考える、本研究主題を設定した。

(3) 今日の教育課題から

平成 23 年度から全面実施される学習指導要領においては、教育課程実施上の配慮事項として「児童の言語環境の整備と言語活動の充実」が示されている。

(1) 各教科等の指導に当たっては、児童の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童の言語活動を充実すること。(第 1 章第 4 の 2(1))

これは、「児童の言語活動を充実」させることによって「児童の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ」んでいくようにすべきであるということである。つまり、これまで行ってきたであろう諸言語活動について「思考力」「判断力」「表現力」を育てるといふねらいを明確にして取り組ませる、そのことを「各教科等の指導に当たって」行う、ということであり、本研究で掲げる「言語活動の充実」とねらいは同じであると考えている。

3. 研究主題について

(1) 「基礎・基本」とは、学習指導要領に示されている各教科等の目標を含む内容であり、次の学習場面から見ると「既習事項」ともいえる。また、内容だけでなく「学び方」も含む。

- (2) 「～を身につける」とは、学んだ内容や学び方を言葉でまとめて表現できているということ。
- (3) 「学びに生かす」とは、教科等の学習活動はもちろん児童が学校生活の諸学習場面において、見通しを立てて課題解決をめざすこと、つまり、既習事項を手がかりにしようとする事。
- (4) 「言語活動の充実」とは、ねらいを明確にした言語活動に多く取り組ませること。

4. 本研究の目標

- (1) 学習全般において「基礎・基本を身につけ、学びに生かす児童」を育成すること。
- (2) 基礎・基本が身につくように、指導のあり方(授業等)を改善すること。
- (3) 「言語活動」の内容やあり方の吟味を通して、活動を通して学ばせる授業における指導力を高めること。

5. 研究仮説

国語科・算数科の学習指導において、ねらいを明確にした言語活動に取り組ませることにより、基礎的・本来的な学習内容や学び方を身につけ、その後の学びに生かす児童を育てることができよう。

6. 研究内容

- (1) 学習における「言語の役割」を明確にすること。
- (2) 「思考力・判断力・表現力等」の育成をねらいとした言語活動のあり方(何のために、いつ、どんな活動に取り組ませるか)を探究すること。
- (3) 言語活動に取り組ませる機会をより多く見いだすこと。

7. 研究の方法と方針

(1) 授業実践

- ア. 学年研究会：参観し合う時間を短時間とし、随時行うようにする。終了後には学年会等を開催して意見交換を行い、互いの学級でその成果を生かすようにする。また、国語部会および算数部会での学びを交流し合う。
- イ. 全体授業研究会：国語科と算数科それぞれにおける言語活動のあり方を考え合うことができるようにする。
- ウ. 日常実践：ねらいをもった言語活動をなるべく多く設定することで、言語活動のあり方を考えることができるようにする。

(2) 理論研究

- ア. 文献研究(研究図書等)：全体研究会で学び合ったり、研究通信などで情報を共有し合うことができるようにする。
- イ. 先進研究校視察と報告：先進的な取り組みを行っている研究校の授業を参観して学んだり、そのポイントを紹介することで学び合ったりできるようにする。
- ウ. 各種研究・研修会参加と報告：各種研究・研修会で学んだことを全体に伝えることにより、学び合うことができるようにする。

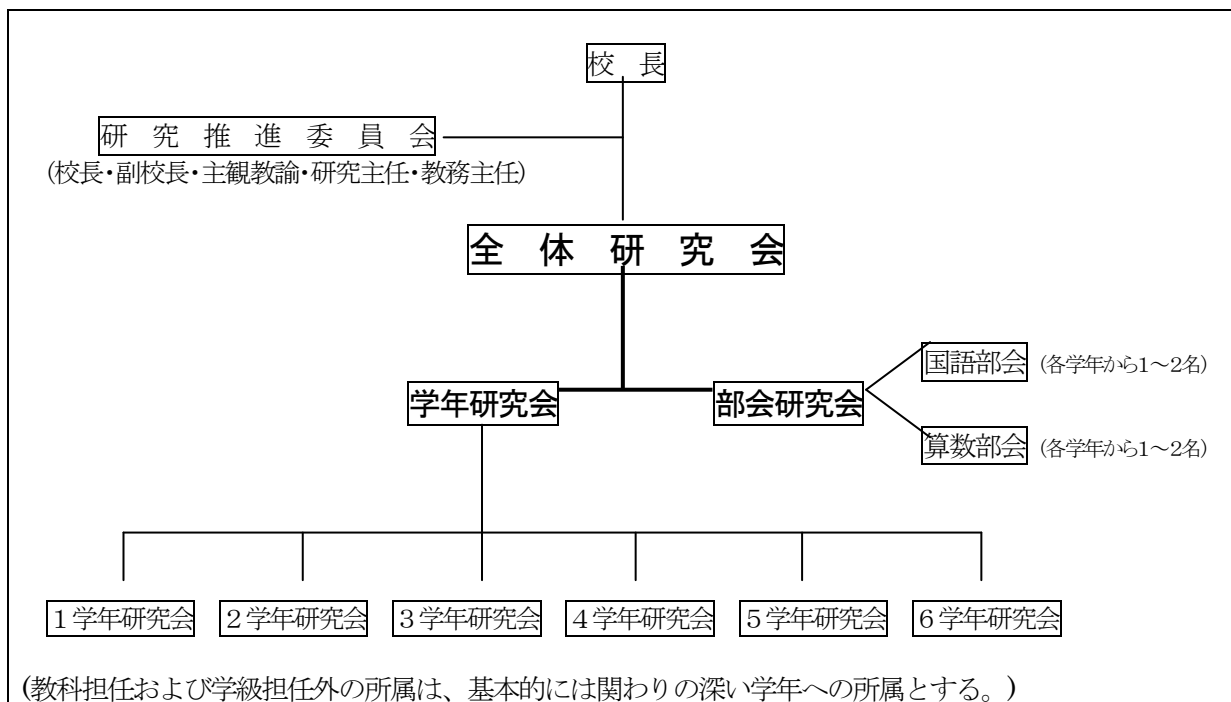
(3) 調査研究 ア. 諸検査 イ. 質問紙

8. 研究の推進計画

(1) 全体構想図



(2) 推進体制



(3) 授業研究会の基本となる視点

- ・ 授業研究会では児童の活動とその学びに注目し、
 - 【児童は何を学んだか、その学びは何によって成立したのか】
 - 【言語活動はその活動のねらいおよび本時のねらいの達成に効果的であったか】
- について見取り、協議する。

(4) 研究計画

回	月/日	曜	形態	授業提供学年	主な内容	講師派遣要請
1	4/8	金	全体		【1年間の見通しをもつ】 ・ 主題研究計画に関すること(主題等、部会の運営) ・ 学力向上対策に関すること	
2	4/21	木	全体 →部会 →学年		【言語活動についての理解を深める】 ・ 「言語の役割」に関すること(全体) ・ 「事例」から学ぶ、学習のしかたの基本について(部会) ・ 総合的な学習の時間との関連を図ること(学年)	
3	5/26	木	部会 →学年		【部会毎に言語活動のイメージをもち、学年で共有する】 ・ 「事例」をもとにして実践計画を立てて交流する(部会) ・ 実践計画を学年で共有する(学年)	
4	6/9	木	学年	全 国語 算数	【各学年で言語活動についてのイメージを深める1】 ・ 国語科(2,4,6年)、算数科(1,3,5年)の授業を参観し、それをもとに協議し、言語活動のイメージを膨らませる。 ・ 授業提案は1教科(1時間)。もう1時間は他学年の他教科を参観する。(学年)	
5	7/7	木	学年	全	【各学年で言語活動についてのイメージを深める2】	

回	月/日	曜	形態	授業提供学年	主な内容	講師派遣要請
				算数 国語	・国語科(1,3,5年)、算数科(2,4,6年)の授業を参観し、それをもとに協議し、言語活動のイメージを膨らませる。 ・授業提案は1教科(1時間)。もう1時間は他学年の他教科を参観する。(学年)	
6	8/18	木	全体 →学年の 部会毎		【他学年の実践を参考にして、2学期の言語活動の実践計画を立てる】 ・1学期の実践例の紹介と協議(全体) ・2学期の実践例の計画立案(学年の部会毎)	
7	9/1	木	全体	特別 支援 学級	【特別支援学級の指導の様子から学ぶ】 ・特別な支援を要する児童への指導のありかたを協議 【教育課程全般について理解を深める】 ・教育課程説明会の伝達講習	
8	9/22	木	部会		【部会毎に提案授業の構想を練る】 ・全体授業研究会の事前研究会	
9	9/29	木	全体	○年 ○年 国語	【国語科授業について、全体で言語活動のありかたを検討する】 ・国語科授業の事前研究会	
10	11/10	木	全体	同上	【国語科授業を通して、言語活動のありかたを学ぶ】 ・全体授業研究会	○
11	11/17	木	全体	○年 ○年 算数	【算数科授業について、全体で言語活動のありかたを検討する】 ・算数科授業の事前研究会	
12	12/1	木	全体	同上	【算数科授業を通して、言語活動のありかたを学ぶ】 ・全体授業研究会	○
13	1/19	木	全体		【今年度の研究への取り組みを振り返り、まとめる】	
14	2/16	木	全体		【次年度の研究の方向性を明らかにする】 ・次年度の主題研究の方向性の検討	

○現職研修にかかわる研修会

現職研修計画(1-(2))に基づいて、上記日程のほかに設定する。

- ・算数授業カステップアップアドバイザー研修会
本事業(村教委主催)の研修の未経験者を対象に実施する。担当は現職研修担当とする。
- ・外国語活動ステップアップアドバイザー研修会
高学年の1授業を参観し、全体研修会として協議し学び合う。
- ・その他の研修会

(5) その他

ア 授業展開の基本

児童と学び方を共有するため、これまでの研究成果から、授業の展開は下の流れを基本とする。

過程	主な学習内容	主な学習活動	指導上の留意点
つかむ	1. 前時に学習したことや方法 2. 本時の学習課題	【前の時間はどんな学習をしたのかな？】 ・前時の学習を想起する。 【今日は何を学ぼうか？】 ・本時の学習課題を設定または確認する。	・前時とのつながりを確認することで、本時学習の必然性を意識付ける。 ・本時の学習への意欲を喚起する。
見通す	3. 課題解決のための手がかり	【どんな方法で解決しようかな？】 ・これまでの学習方法を振り返って、解決方法を考える。 ・本時の学習の流れをつかむ。	・これまでの方法が活かせる場合やこれまでの方法に似ている場合は、その関連を意識させる。 ・新たな方法を必要とする場合は、児童にわかりやすいような提示の仕方を工夫する。
深める	4. 本時の学習内容	【挑戦しよう！】 【他の人の考えはどうか？】 ・自力解決 ・ペア学習 ・グループ学習 ・全体で交流 など	・言語活動を積極的に組み入れていく。 ・活動相互の関連性や必然性を明示しながら指導する。
まとめる	5. 本時の学習で分かったこと 6. 本時の学習の仕方	【この時間に分かったことは何か？】 ・内容について振り返る。 【この時間の学び方は良かったかな？】 ・学び方について振り返る。	・内容については、なるべく言葉で書きまとめるようにする。 ・学び方については、方法に加えて自分の取り組み方について振り返るようにさせる。 ・一人ひとりが学びを深めたことや共同して学べたことを前向きに評価し、自己肯定感を高めるように方向付ける。

イ 特別な支援を要する児童への配慮

特別な支援を要する児童が学習に積極的に参加できるように、例えば以下のような観点から指導を工夫する。

- ・課題について考えやすいように、**焦点化**する。(発問、問題の提示、表現の方法…)
- ・情報をとらえやすいように、**視覚化**する。(板書、紙板書、図、写真、具体物、半具体物…)
- ・全員が参加しやすいように、**共有化**する。(ペア活動、小刻みな表現活動…)
- ・始業前に、机の上や黒板周りを整理し、不要な情報を与えないようにする。
- ・学習の展開をパターン化して、見通しを持ちやすくする。
- ・指示はなるべく具体的に短く示す。
- ・余った時間に取り組む課題を用意する。